矢治・岩神神社前からうれし峠の方を望む

せっかくの機会なので、壬申の乱をご紹介！ ―「1350年前の戦い・壬申の乱」

資料館ＨＰでも情報発信中！ http://www.town.yoshino.nara.jp/about/shisetsu/dentou/rekishishiryokan.html

たぎつみやどころ 第9号 令和4年6月1日発行

【編集】吉野歴史資料館 奈良県吉野郡吉野町宮滝348 ※現在は土日祝日のみ開館。12月～2月は冬季休館。お問い合わせは左記まで。
【発行】吉野町産業観光課 奈良県吉野郡吉野町上市80－1 ☎:0746-32-3081 mail: bunkazai@town.yoshino.lg.jp

吉野歴史資料館のコロナ対策

このたび吉野歴史資料館では、来館者に安心してご利用いただけるよう、新型コロナウイルス感染症対策を充実しました。空気を循環させるサーキュレーター、空気清浄機、自動手指消毒器、自動体温測定器などを設置し、お手洗いなどの水道を自動水栓化いたしました。

これまでにも当館では、開館前や開館後に館内を消毒したり、換気扇をもちいた常時換気など、感染対策に努めてまいりましたが、これまで以上に新型コロナウイルス対策に努めてまいりたいと思います。

ご入館の皆様には、手指消毒や体温測定、代表者の連絡先の確認など、ご負担をおかけしておりますが、引き続きご協力のほど、よろしくお願いします。

吉野歴史資料館だよりは、希望される方に無料でお送りしております。詳しくはお問い合わせください。

【注意】電車でお越しの場合は…

令和4年4月から、吉野町のスマイルバス（土・日・祝日）が、定期路線からデマンド式（事前予約制・指定した場所から指定した場所までの乗車）に変わりました。バスは町外の方でもご利用いただけますが、予約センターに事前予約が必要です。予約受付は平日のみとなっています。

※土曜日のみ、やまぶきバスなどが1日四本、定期路線で運航しております。

土・日・祝日に大和上市駅などから宮滝へお越しになるご予定の方や、吉野山から宮滝まで歩いてバスで大和上市駅に帰るご予定をされている方は、ご注意ください。

くわしくは、吉野町HP内・吉野町コミュニティバス（スマイルバス）の頁で紹介されています。事前のご確認をお願いします。

資料館からのお知らせ・報告（令和４年度の文化財事業やイベント等）

【注意！】下記イベントは、新型コロナウイルス感染症の状況によって、内容が変更となる場合があります。悪しからずご了承ください。

特別陳列

●いかにして、壬申の乱は語られてきたか

会期：開催中～11月末
場所：吉野歴史資料館２階常設展示室内
料金：一般　二〇〇円
　　高校生以下・六五歳以上　一〇〇円
（その他、団体割引などあります）
備考：ご覧頂ける時間は、吉野歴史資料館の開館時間によります（現在は土・日・祝日のみの開館）。新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、休館している場合があります。事前にＨＰをご確認下さい。

展示の様子

公開講演会

●いかにして、壬申の乱は語られてきたか

日時：令和４年６月18日（土）　14時～
話者：当町職員　　定員：四〇名
会場：吉野町中央公民館大ホール

●【対談】壬申の乱を物語る視線（仮）

日時：令和４年７月３日（日）　14時～
講師：澤田瞳子氏（直木賞作家）・当町職員
※この回は講座ではなく、対談会になります。
定員：七〇名
会場：津風呂湖カヌー競技場　艇庫

●大海人皇子の吉野入りと壬申の乱（仮）

日時：令和４年７月31日（日）　14時～
講師：来村多可史氏（阪南大学）定員：四〇名
会場：吉野町中央公民館第３研修室

●「壬申の乱」と『万葉集』（仮）

日時：令和４年８月20日（土）　14時～
講師：鈴木喬氏（奈良大学）　定員：四〇名
会場：吉野町中央公民館第３研修室

備考：新型コロナウイルス感染症が拡大した場合、参加人数制限や日程の延期、開催の中止などを行う場合があります。

【講演会申し込み方法】いずれの会に参加希望かを明記のうえ、お名前、住所、連絡先（電話番号）を左記発行元（吉野町役場産業観光課）までお知らせください。お申込み方法はメール、FAX、往復はがきのいずれかに限ります。受付は先着順です。悪しからずご了承ください。

吉野が紹介されます・されました！

左記の刊行物に記事や写真等を提供しました。

・広報誌・『県民だより奈良』５月号
・雑誌・『月刊大和路ならら』５月号
・雑誌・『月刊大和路ならら』６月号
・雑誌・『月刊奈良』４月号

※おわびと訂正

『たぎつみやどころ』第８号で、写真提供などを行いました雑誌名に誤りがありました。

【誤】『月刊大和路なら』３月号・４月号
【正】『月刊大和路ならら』３月号・４月号

※関係者の皆様に深くお詫び申し上げるとともに、ここに訂正いたします。

資料館で南朝の本が閲覧できます

吉野町は南朝の歴史でも有名です。このたび、吉野歴史資料館では、南朝に関する図書を約三〇冊購入しました。吉野歴史資料館でどなたでもご覧いただけます。ご興味がおありの方は、ぜひ資料館へお越しください。

【特別寄稿】

一三五〇年前の戦い・壬申の乱

吉野町役場産業観光課　中東　洋行

1　壬申の乱とは

時をさかのぼること一三五〇年前、日本の古代史上で最大の戦いともいわれている「壬申の乱」がおこりました。この戦いは、乙巳の変（大化の改新）以降の時代を、陰に日向にささえてきた天智天皇（中大兄皇子）の後継ぎの座をめぐっておこなわれました。

少し時をさかのぼって、当時の情勢を確認しておきましょう。当時の東アジアはまさに激動の時代。中国大陸では大国・唐が勢力をひろげ、その影響をうけて、周辺諸国でも各地で戦いがおこっていました。当時の日本も参戦した、朝鮮半島での戦い「白村江の戦い」もその一つです。この戦いで、日本は唐・新羅連合軍に大敗。自国の弱さを痛感することになります。

「白村江の戦い」後の日本は、唐が攻めてきたらどうしようか、また、今後は唐や新羅といった国々とどのように付き合っていけばよいかと、外交面で難しい問題に直面することになります。

外交を中心に課題が山積みのなか、国の舵取りをしてきたのが天智天皇でした。その後を誰が受け継ぐのか。当時は大問題だったことでしょう。この時に後継の座を争ったのが、天智天皇の弟・大海人皇子と天智天皇の息子・大友皇子でした。

2　戦いの前夜

なぜ大海人皇子と大友皇子は戦ったのでしょう。そのはじまりは天智天皇が亡くなる3か月前にさかのぼります。

その頃、病気でふせっていた天智天皇は、自らの死期をさとったのか、自身の枕元に大海人皇子を呼び寄せます。そして、「次の天皇はお前に任せたい。」と伝えたのでした。

天智天皇の言葉を聞いた大海人皇子は、疑念をいだきます。というのも、天智天皇の枕元に向かう途中、迎えにきた側近から、「天智天皇からの質問には、注意してお答えになった方がよいですよ。」と忠告をうけていたからです。この天智天皇の言葉をワナだと考えた大海人皇子は、天智天皇からの提案を断り、「吉野で出家し、天智天皇の病気が治るよう、お祈りしたいと思います。」と答えたのでした。

それからの大海人皇子の動きに迷いはありませんでした。その日のうちに、自分の手元にあった武器を全て返し、頭をまるめました。そして、天智天皇から袈裟をもらい、数日のうちに吉野へと出発したのです。吉野へ向かう途中まで大海人皇子を見送った天智天皇の側近たちは、その姿を見て誰ともなく「虎に翼をつけて放つようなものだ」とつぶやいたそうです。そして、大海人皇子が吉野に入って間もなく、天智天皇はお亡くなりになったのでした。

3　戦いのはじまり

大海人皇子が吉野宮で半年をすごしたころ、皇子の耳にとある報告が入ります。その報告をしたのは、大海人皇子とともに吉野で過ごしていた部下の一人でした。

「私用で美濃に行きましたところ、大友皇子が人出を集めておりました。天智天皇のお墓を造るためだそうですが、もしかしたら吉野を攻める準備をしているのではないでしょうか。」

また、別の者がこう報告しました。

「大津の都と吉野の間の要所に兵がいて、吉野への物資運搬を邪魔しています。」

大海人皇子が確認させたところ、どうやらこれらの報告は事実の様です。状況証拠といえ、吉野に向けて兵を出す準備をしているように思えてなりません。「出家までして身をひいたのに、どうしてこのまま黙って殺される必要があろうか。」

大海人皇子は戦いを決意されたのでした。

この出来事から一ケ月後、数人の部下を美濃に先行させ、大海人皇子は吉野を出発します。そして一路、現在の関ケ原を目指されたのでした。

その道中、大海人皇子は現在の伊賀市あたりで息子の高市皇子と合流、四日市市あたりで天照大神を遠く拝み、もう一人の皇子・大津皇子と合流されます。その後、桑名市で夫人の鵜野讃良皇女らをのこし、三重県・愛知県・岐阜県の人たちを味方につけて、関ヶ原に味方を結集させました。その後、戦いの指揮を息子の高市皇子にまかせ、大友皇子のいる大津へと攻めこんだのです。最終決戦は、瀬田の唐橋で行われました。

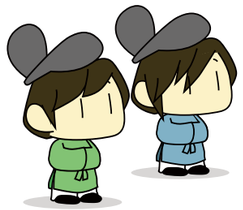
4　奈良で活躍した別動隊

同じとき、いまの奈良県内では大伴吹負ひきいる別働隊（大海人派）が戦いを続けていました。別働隊は、「我こそは高市皇子だ」と偽りの名乗りをあげて戦ったので、大津の都の人々はさぞ混乱したことでしょう。彼らの活躍で要衝・飛鳥の都は大友軍に奪われることはありませんでした。またこの別働隊のために、大友皇子たちは関ヶ原から攻めてくる大海人軍に集中できなかったことでしょう。

ちなみに、この別働隊の動きを大海人皇子に報告したのが大伴安麻呂。令和で有名となった、あの大伴旅人のお父さんでした。壬申の乱の後、大伴一族はその活躍を認められ、大きく取り立てられることになります。壬申の乱がなければ、大伴旅人の出世もなく、「令和」の言葉はうまれなかったかもしれません。

5　壬申の乱は語り継がれる

壬申の乱の後、大海人皇子は即位して天武天皇となり、飛鳥に都をもどします。そして、飛鳥浄御原宮の造営や飛鳥浄御原令の制定などをおこないました。また、藤原宮・藤原京の造営構想や、宗教の保護、八色の姓（新しい朝廷の身分秩序）の制定といった取り組みをすすめたのです。

こうした活躍から、天武天皇（浄御原天皇とも）は歴史上の著名人として、後の時代の文学作品や各地の伝承で長く語り継がれることとなったのです。

吉野町内にも、大海人皇子の伝承は多く残っています。皆様の身近にもないか、この機会に探してみてください。